

マーケット概況（2025年12月）

12月の債券相場は、日銀の早期利上げ観測から売りが先行し、10年380回債は前月末比+3.5bpの1.840%で取引を開始した。植田日銀総裁から12月利上げに前向きな発言がなされると、相場は下げ幅を拡大させた。2日の10年債入札を順調に通過すると一旦は下げ止まったが、高市政権の掲げる積極財政への懸念から軟調地合いを継続した。9日の5年債入札を無難に通過し、10日のFOMCで0.25%の利下げが決定し米国債利回りが低下したことに加え、11日の20年債入札が好調な結果となると反発する場面も見られた。しかし、19日の日銀金融政策決定会合で政策金利が1995年以来の水準となる0.75%に引き上げられると、相場は売りが優勢となった。円安進行に伴う早期の追加利上げへの警戒から22日はさらに売り込まれ、10年380回債の利回りは2.100%とカレントとして1999年2月以来の水準まで上昇した。来年度の国債発行計画で超長期債の減額、及び10年債の発行額維持が報じられると長期・超長期債は反発したが、発行増額となった中期債は低調な2年債入札も相俟って売りが継続した。年末には2年480回債は1.170%と1996年8月以来、5年182回債は1.545%と2008年6月以来の水準まで利回りが上昇し、結局、10年380回債は2.060%で年内の取引を終えた。

<短国市場>

12月の短国市場は、月内利上げを織り込む動きから5日の3M1348は前回債より8bp程度上昇した最高落札利回り0.6361%と2008年以来の高金利となったがテールは流れず、12日の3M1350も0.6323%と堅調な結果であった。9日の6M1349も0.7023%と前月債よりも10bp程度金利上昇したが事前予想通りの無難な結果であった。17日の1Y1351は前月債よりも12bp程度上昇した0.8749%と2007年以来の水準で、前場出合いが0.855%であった事から弱い結果と受け止められた。18日の3M1352は翌日の利上げを織り込み0.6828%で決まり、19日には利上げが行われた。3Mは需給良好で一時0.550%ビッドとなった一方で、1Yゾーンは元々在庫が残っていた事から1Y1351は月末には0.920%まで売られた。

<一般債市場>

12月の定例地方債は、10年債が国債カーブ対比+12bpと前月比横ばいとなった一方で、5年債が前月比1bpタイトニングの国債カーブ対比+9bpの条件決定となった。5年地方債のタイトニングは2ヵ月連続となり、10年債と5年債のスプレッドは3bpに拡大した。また、10年定例政保債は前月比横ばいの国債カーブ対比+10bpの条件決定となり、政保債・地方債スプレッドは2bpが継続した。12月の事業会社債の発行額は、ソフトバンクG債5,000億円やKDDI四本立て債3,000億円の大型起債など計1兆8,742億円(60銘柄)となった。

◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#380	1.840(1日)	1.840(1日)	2.100(22日)	2.060(30日)
#379	1.840(1日)	1.840(1日)	2.085(22日)	2.060(30日)
#370	1.645(1日)	1.645(1日)	1.875(22日)	1.865(30日)
#181-#182(5Y)	1.345(1日)	1.345(1日)	1.545(30日)	1.545(30日)
#194(20Y)	2.855(1日)	2.855(1日)	3.025(22日)	2.985(30日)
#1342-#1349 TDB(6M)	0.710(9日)	0.690(9日)	0.710(9日)	0.690(23日)
#1347-#1352 TDB(3M)	0.620(5日)	0.615(5日)	0.665(18日)	0.665(18日)